

東高 国際だより

平成30年10月10日
京都府立東舞鶴高等学校
国際教育部発行
2018 vol. 6

3年国際文化コース 秋の稲刈り実習(9月19日)

「日本文化」の授業で5月16日に田植えをした苗が立派な稲穂を実らせ、今回も引き続き地元農家の椋本和明氏の援助により稲刈りを体験しました。鎌の使い方や稲の束ね方、干し方などを指導して頂き、無事収穫を終えることができました。10月24日に収穫祭を行う予定です。



2年国際文化コース 京都府国際交流員と名誉友好大使との交流会(9月21日)

京都府国際交流委員と京都府名誉友好大使の合計5名をお招きして交流しました。ハンガリー、エジプト、韓国、サウジアラビア、イギリスと様々な国から来日されており、京都府の国際交流事業に協力されています。

まず、開会式では音楽パフォーマンスでお出迎えし、そのあと5グループに分かれて、自分のことや学校、舞鶴、日本文化の紹介を英語でしました。剣玉(下の写真)や福笑い、羽子板で盛り上がり、楽しく和んだ雰囲気となりました。

また、交流員・友好大使への質問もし、出身国についての興味深い話を聞くことができました。



2年国際文化コース 中国の画家 王希奇氏の特別講演会(9月28日)

舞鶴引揚記念館30周年の特別展示企画で来日された中国人画家の王希奇氏の講演会が2年生国際文化コースで行われました。

王さんは中国の葫蘆島(ころとう)という港町からの引き揚げを題材にした作品を制作しておられます。

王さんは、インターネットで「骨壺を持つ少年」の写真に偶然に出会ったことをきっかけに、1946年に105万人余の残留日本人の大送還を知ることとなりました。そこで、民族的な立場ではなく、人間性という普遍的な立場からこのテーマを描こうと決意され、<一九四六>(3mX20m)の大作を3年半かけて完成されました。

最後に、生徒達に「戦争に勝利者はいません。被害者は弱い立場にある子ども、そしてその親です。世界の平和を守るために一緒にがんばりましょう。」とメッセージを残されました。



舞鶴引揚記念館で9月28日~12月2日まで「王希奇展」が行われています。是非ご覧下さい。

第9回神戸女学院大学絵本翻訳コンクール応募

本年度の課題は「The King and the Sea」という英語の絵本を翻訳するものです。これに1、2年生の女子生徒6名が挑戦しました。応募者は次のとおりです。

- 1年2組 小林かりんさん(白糸中出身)
- 1年4組 福原 葵子さん(青葉中出身)
- 1年4組 藤山 歩帆さん(青葉中出身)
- 1年4組 松山 佳澄さん(若浦中出身)
- 1年4組 水谷 咲来さん(白糸中出身)
- 2年5組 山田 瑞希さん(白糸中出身)

2018 Global English Camp 参加

2年5組 遊里道 大智君(白糸中出身)が英語力の向上を図るために、世界中から来日した大学生と交流できるEnglish Campに今夏参加しました。

(感想)5日間、大阪で実施されましたが、家に帰りたくないほど楽しかったです。東京オリンピックや国連の活動など毎日違うトピックで英語で話し合い、プレゼンをするのが主な活動でした。海外留学をしたいという将来の目標についてもアドバイスをいただきました。

ESS部活動インタビュー 沓澤 瞳 部長(白糸中学校出身)

1学期は英語のレシピを読みながら、カナダ風パンケーキなどを作りました。また、ハンカチに絞り染めをしてみました。2学期は文化祭でPhoto Boothをし、ハワイの景色をバックに来室者の写真をポストカードに印刷してプレゼントし、暑中見舞いのメッセージを英語で書いてもらいました。今取り組んでいるのは、昨年撮った自主映画「Pretender」に日本語の字幕をつける作業で、東高展に出せるよう頑張っています。(写真 Tie-Dye Activity: 絞り染め)



東高先生の Another Sky 5回目 野田 和代 先生(英語科)

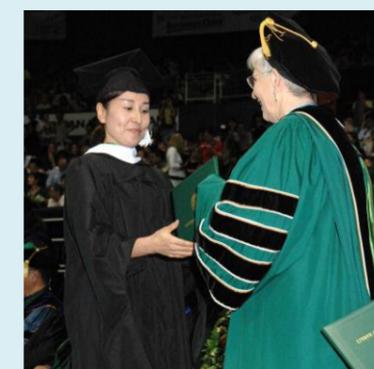
Q 野田先生の「アナザースカイ」はどこですか。

A アメリカのハワイ州ホノルルです。2009年8月から2011年12月までの約2年半、ハワイ大学マノア校の大学院で、応用言語学の1分野である第2言語習得について学びました。長期留学は、高校生の頃からの夢でした。なかなか1歩を踏み出すことができませんでしたが、教師として働き始めて〇〇年過ぎた時、思い切って休職し渡米しました。夢は思い続けていれば、実現できるものですね。大学院では、各科目の課題が予想以上に多く、「本当に卒業できるのか」と思うと夜眠れないこともありました。

Q 日本とアメリカの大学生生活の違いは何ですか。

A アメリカでは自分の意見をしっかり持ち、ディスカッションやプレゼン、また論文などで表現することを繰り返す求められました。また、意見はオリジナリティーあふれるものであればあるほど、高く評価されました。自己表現に慣れていない私にはつらい毎日でしたが、ハワイでは自分を発信することで友人や教授と親しくなれた気がします。とにかく、アメリカは、「発言してなんぼ」そして「交渉」の国です。黙っていたら、気にかけてくれません。その一方で、自分から積極的に話しかけると、クラスメートも教授もとてもフレンドリーに接してくれました。日本では、「忖度」という言葉が昨年の流行語大賞に選ばれましたね。「他人の気持ちを推し量ること」という意味です。「空気を読む」や「以心伝心」などと同様、日本文化の素晴らしい一面ですが、いったん日本を離れると通用しない可能性があるということも知っておく必要があるでしょう。この留学を通して、日本とは違うものさしの文化圏で、様々な価値観に触れることができました。

同じコースの仲間と教授たち、学生は、世界中からやってきます。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

